

# Alakol 湖 Trekking 記録

JFMA のホームページから抜粋

<http://jfma.news.coocan.jp/Tenshan%20Alakol.htm>

<http://jfma.news.coocan.jp/Tenshan%20Alakol%202.htm>

今回のトレッキング基地は、**カラコル**という町。ここまでどうやって行くかといいますと、まずは飛行機(ウズベキスタン航空)で直接タシケントまで行き、その後、飛行機を乗り継いでキルギスのビシュケクまで。タシケントまでの空路は、眼下に天山山脈が広がり、いやがおうでも気持ち盛り上がります。またビシュケクまでの移動も、バケツにフルーツを入れた客やらポットそのまま持参の客等々、国際線でありながらも“高速バス”なロコな雰囲気を楽しめます。

そして翌日は車でカラコルへ。

ビシュケクからカラコルまでは約 400km.東京～名古屋間が 300km 越えることを思うと、考えただけで疲れそうな移動距離です。とはいえ、前半はカザフスタンとの国境を眺めながらのドライブ。

このパオ(キルギスではそう呼ばずに、モーズィというらしい。ホント?)、ドライブインのレストランとして、スイカの露店とともに、道中あちらこちらに出できます。そして後半は、イスク・クル湖に沿ってのドライブとなるわけですが、この湖、とにかく巨大(琵琶湖 x9)でそして美しい!

ただ、いずこも同じといいたいでしょうか、沿岸のドライブ・ロードには、干物の小魚は湖から、大きなものは他からトラウト、おみやげ売りがずら〜りと林立していて、若干興ざめな雰囲気もなきにしもあらず。

そしてさらにカラコルまでのドライブの途中では、岩絵の観光もありました。(岩絵野営博物館から見たイスク・クル湖もそれは見事な景色です。)

こちらは馬乳酒。酸味がきいてます イスク・クル湖も、ここ半ば付近ではヨットやパラグライダーなどで遊ぶ人たちも見え、かなり高級リゾートな雰囲気でした。

こんな調子で、観光もちらりと織り込みながら、車は 100km オーバーで一路**カラコル**へ向かいます。ただ、高速でもない悪路でこのスピードを出すものですし、加えて、対

面交通で前方から車がくるにもかかわらず、頻繁に追い抜きをするので、まじめに前方を見ていると生きた心地がしませんでした。

それ以外は、幸いといいますか、こちらは日が長く、20 時くらいまでは平気で明るいので、時間がかかっている割には、精神的にラクな感じがします。とはいえ夜は夜なので、レストランは早々に閉まってしまうので、あわてて夕食をかきこんで、明日に備えて就寝することになりましたが。

めちゃおいしそうなおモツツアレラ 岩絵

**8th:** Karakol(9:20)-(11:00)Karakol valley(13:00) -Kurgak Torgorge-Sirota camp site(2,900m)(15:30)

**カラコルバレーまでは車**で送迎してもらえるとのことでしたので、「歩かないですむ」と喜んでいたのですが、翌朝になって一同ぎょうてん。ホテルの前で待っていたのは、軍用車の払い下げのようなトラックでした。荷物用かと思えば、さにあらず。なんとヒト用。啞然としたものの、こんな車、そうめったに乗れるもんじゃありません。「えー!?!」といいながら、メンバー全員大喜びです。(ですが、中での様子は、まるで全員で連行される捕虜のようでした。)

いよいよ **National Park** へ。この車、最初こそ楽しかったものの、ナショナルパークへ入ってからは岩に乗り上げたり細い折れそうな木の橋を渡ったり、また上下左右斜めと3D で飛ばされんばかりの揺れが続きます。座席から天井まで、掴まれるものにはつかまりながら、緊張で耐えること 1 時間半。車両進入最終地点まで来るところには、メンバーみなぐったりでした。

軍用車の払い下げか???

さて、激しい揺れから解放されたところで、ここで**ランチ休憩**と最終準備です。**今夜のテントサイトまで数時間かかる**のと、ポーターたちの準備にまだ時間がかかることから、ガイドのビクトールが景色の良い場所まで、案内してくれることになりました。(が、なんのことはない、来た道に戻っただけでしたが)往路を下って馬の放牧場まで足を伸ばします。

馬がこんなのにのびのびと、それもごろんと寝ている姿は初めてみました。仔馬たちもなんのストレスもなさそう。実は私たちが車で 1 時間半かかったこのコース、歩くとコ

一スタイムで2時間だそうです。軍用トラックでの上下左右のマルチな揺れも楽しかったですが、こんなに素敵な風景の中を、のんびり歩きながら上がってくるのも素敵ですね。

そして、腹ごなしの散歩終了後、**いよいよトレッキングの開始**です。

橋を渡って、しばらく森の中を歩いたあとは、標高に合わせた**色とりどりのお花**に囲まれながらのメルヘンなトレッキングです。**湿原**が出てきたら、テントサイトまでもう少し。

### **標高に合わせてまわりの花々は変わっていきます**

振り返れば、休憩したキャンプサイトは豆粒に岩場を越えて湿原が出てきたら、テントサイトまでもう少し

そして沢沿いに最初の**テントサイト・シロタ**が現れます。

**沢沿いの森の中の、かわいいテントサイト**です。ここで標高は**2,900m**。メンバーの中には、すでに**高所障害**が出ている人も。

メンバーのさくらちゃんが持参した塩こんぶが大人気。やはり調子が悪い時には、おかゆのようなものが良いようです。

### **この日のトレックはまずは沢沿いからスタート**

しばらく上がると、沢にも雪渓が残っていたりして、体感もかなり涼しくなってきます。

**9th:** Sirota camp site(7:10)-(10:00)Lake Alakol ·lake side(3,500m)(12:30)  
期待していた夜の星ですが、森の中で頭上の視界が狭かったのと怖かったのとがあり(笑)、じっくり見ませんでした。ちょっと残念。

代わりといっちはなんですが、早朝のまだ暗い中にテントを出たところ、大きな黒い影が。逃げていく姿がダチョウにしか見えなかったのですが、ガイドのビクトールに話したところ、「んなのいるわけねえ、ウサギだ。」(ダチョウがいないのは当たり前ですが)実はポーターが私たちより先に到着した際も、この**テントサイトには先住の野ウサギが約5匹**いたとか。それを証明するかのように朝食後に近隣を散策したところ、しっ

かりと謎の野ウサギを目撃することができました。

疲れた私たちを励ますかのように**お花畑の向こうに滝**が見えてきます。

写真でもひとつですが、**ブルーアイスが素敵**でした。しばし休憩をとった後は最後のひとふんばりです。

ここを越えればアラコル湖が見えるはず。登る足にも力が入ります。

余談ですが、私たちには結構ヒューヒューだったんですけど、ポーターたちは私たちを追い抜いてあっという間に上部で休憩していました。さすがです。しばし景色に見とれたあとは、落口まで足を伸ばしてみました……。で、肝心のトレッキングですが、この日の行程はメンバーの体調も考慮して、**3パターンが提案されました**。

**A) 湖畔入り口付近でテン泊。**

**B) 湖中央あたりの湖畔でテン泊。**

**C) Pass (峠) を越えてキャンプサイトまで。**

翌日の行程を考えるとCが良さそうですが、**湖畔の景色がとにかく素晴らしいとのことで、今日のトレッキングの企画者の高木氏はB案を強くおっしゃっていました**。

ゴルジュになっていて奥は見えません。これ以上は怖くて近づけませんでした。

このアラコル湖は高木氏が推薦していた通り、静かでうつくしい湖です。

東側 南側 西側 ただずむ大和撫子

ここまでがこの日のトレックですが、当初立てたプラン A。まだ時間もあるしみんなも元気なので、目標を**プラン B**として前進することになりました。

ここまで来ると、**奥の氷河まで見る**ことができ、**湖の全貌を見渡す**ことができます。

この休憩地点で、**プラン B**にしておくか**C**にするかを検討会議。時間はまだお昼前ですが、**峠までゆっくり歩いて3時間。キャンプサイトまでの歩きを加えると遅いペースで5時間程度。日が長いので楽勝かとおもわれましたが、テントサイトとしては、ここの方が景色が良いことと、軽いとはいえ高所障害が出ている人もいてペースも確実ではないことから、この日はここまでとすることに決定しました**。

そして私たちが**停滞を決定したとたん**、それまでのお天気から一転して雲があらわ

れ、**雨がぱらり**と降ってきました。このあとのお天気が気になるのですが、時間はまだお昼ですし、それほどひどくなる感じもなかったので、「ちょっと歩き足りない」メンバーで遠くに見える**氷河まで散歩**に行くことにしました。ところが、そこは山の天気。**雨どころかみぞれ**が降ってきてしまい、それも**本降りの様相**になってきたので、**泣く泣く断念**。

寒いのもあるのですが、**バラバラと打ってくる雪が痛く、無念の敗退**です。後ろ髪をひかれながらすすごすご湖畔を**テントまで戻りました**。

**テントサイトに戻ってみると、残留組はすでに宴会中。テントの入口を開け放ち、そこから降る雪と白く変わっていく地面をながめながらの「雪見酒」**です。

どんな状況でもお酒があればニコニコのメンバーです。この日は宴会に終始し適時就寝でした。

湖畔のあちらこちらにある**マーモットの巣**も雪に埋まることなくその姿をみせています。

**今日の歩**きは長丁場ですが、**峠までの3時間程度の登り**をがんばれば、**あとは下るのみ**。

このきれいな風景ともこれでサヨナラと思うと、名残惜しくて足をとめてはシャターを切ってしまうです。

**10th: Lake Alakol(7:10)-(9:40)pass Alakol(3,800m)(10:00) -(11:30)Keldike gorge(12:30)-Keldike vally -Altyn Arashan resort(16:30)**

ここ**レイクサイドの標高は3,500m**。それまで出なかった高所障害ですが、「寝た翌朝にひどくなる」ということなので緊張して就寝しました。確かに夜中に心もち頭が痛かったような気がしますが、朝起きて散歩に行ったら全身に酸素が回ったようで、ぱっちり回復しました。帰国してから知ったことですが、歩く、立つ、座る、寝るの順で、酸素を取り込みにくいそうで、考えずにしていたことですが、朝の散歩は体調に有効だったようです。

(とはいえ、ここではからみで歩いてもすぐに息がきれてしまったのには驚きましたが。) **朝食を終えて、3日目のトレッキング開始**です。この日は**昨日の雪がうそのように**

**良い天気。**真っ白になっていた峠への道も、みるみる白さが消えていきます。さてここまではまとまって歩いていた私たちですが、ここに来て早組と遅組に分かれました。

高度を上げると昨日行き損なった**氷河がよく見えます**。心持ちクレバスが大きくなったように見えたのですが、気のせいでしょうか。

のんびり歩いていると、後ろから撤収を終えたポーターたちが私たちを追い越していきます。が、その足を見てびっくり。なんと革靴の子が!びっくりして SL に告げると、「彼ら、勤務中だからね。」

座布団 3 枚級のおやしギャグでした。

**高度をあげるにつれ奥から真っ白い雪を戴いた山々が見え、天山山脈(の一部)一望することができ感動もひとしおです。**

おおむね 5000m 台。いつか行ってみたいなあという気持ちが素直に湧いてきました。

そしてほどなく **3800m の Pass** へ到着。全員で到着を喜び記念さつえいです。ここまでのメルヘンな光景とは裏腹に**峠の北面は雪庇**。改めて高度を実感しました。

この先は下る**一方のはずなので安心していたのですがそう簡単にいきませんでした。下りの一步はザレかなり滑りやすく怖かったです**。慎重におりカールに着いたあとはもうメルヘンなトレックが続きます。

きついアップダウンもないので、**咲き誇る花々を眺めながらのゆったり歩き**で楽しみます。

湖畔でも沢山みかけましたが、ここでも**マーモットの巣が沢山**出てきました。湖畔と違うのはこちらの巣はみずみずしい緑の玄関が彩られていて、湖畔と比べてなんだかゴージャスな雰囲気でした。

高度を下げていくと放牧中の牛や馬たちが出てきます。次に待っていたのは**渡渉**。後半グループのガイドをしてくれたキッチンボーイのエランくん、比較的渡りやすそうな所を見つけるや、**手頃な岩を投げて足場**にしてくれたりと紳士的なエスコートぶりに感激しました。ここから先も牧歌的な風景が続きます。しばらく歩くとまた別の放牧エリアへ。

ここで遊牧中のご家族のだんらん遭遇。とてもフレンドリーな家族で、今井氏の人なつかしいキャラもあいまって**ヨーグルトをご馳走**になるといううれしいハプニングも。め

ちやくちや美味しかったです。。。!

後半戦もいよいよクライマックス。この沢を渡れば目的地の温泉場**アルティンアラシ**ャンはもうすぐそこです。アップダウンはないとはいえ長丁場のトレック。アルティンアラシヤンの見える頃には頭の中は温泉とビールのことでいっぱいです。

無事到着し、**早組と合流**した後は、卓球場もある日本の**温泉場に似た小屋で待望のビールを呑み、期待の温泉を堪能し大満足**でした。

と、これでトレッキングの一部始終の報告としたいと思います。